

第6学年東組 道徳科学習指導案

学習指導者 山本 健太

1 主題名 感謝の心を広げて [B 感謝]

2 主題について

よい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であるが、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。本主題における感謝の対象は、身近な人のみならず、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの、更にはそのような中で自分が生きていることに対する感謝にまで広げることが必要である。

この時期の子供は、自分の日々の生活だけでなく、さらに広い視野で尊敬し感謝する対象に気付き、そのことに対してどのように感じているのか、思いを深められるようになる。温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝し、人々の善意に応じて自分は何をすべきかを自覚し、進んで実践できるようにしたい。

3 教材について

(1) 教材名 『こだわりのイナバウアー』（学研：みんなの道徳 6年）

(2) あらすじ

2014年ソチ五輪・フィギュアスケートで金メダルを獲得した羽生結弦選手。彼の練習の基盤であった仙台のリンクは、経営難や東日本大震災で2度にわたって閉鎖に追い込まれた。その危機を救ってくれたのは、2006年トリノ五輪の金メダリスト荒川静香選手であった。羽生選手は、日本代表として結果が求められる中、高得点にはつながらないイナバウアー（荒川選手の代名詞ともいえる技）を演技構成に組み込んで披露した。羽生選手は、金メダルを獲得することを目標にしつつも、荒川選手や支えてくれるたくさんの人々の思いに対する感謝の念を表すことにこだわったのである。

4 目指す子供の姿と子供の実態について

(1) 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活、更にはそのような中で自分が生きていることに対して感謝することが大切であるという理解を基に、自分が感謝の念を抱く対象とその理由について友達と伝え合いながら感謝の念を広げ、支えてくれている人々の善意に応じて自分が何をすべきかを自覚し、進んで実践しようとしている。

子供たちは本教材を通して、羽生選手がイナバウアーを演技構成に入れることにこだわった理由が、荒川選手のフィギュアスケートに取り組む真摯な姿勢に対する尊敬や、仙台のリンクを救ってくれた温かい思いに対する感謝の気持ちの表れであることに気付いていくだろう。また、荒川選手に対してだけでなく、自分を応援してくれている方々に支えられてスケートができていくことへの感謝でもあることに気付いていく。そして、様々な人の支えや助けによって成り立っている日々そのもの、更に自分が生きていること自体への感謝が大切であるという道徳的価値を理解していく。その理解を基に、子供たちが自分自身の生活を振り返り、例えば「私は、両親や祖父母などの家族に感謝したいな。みんながいつも温かく見守ってくれているから、今の自分があると思うよ」「確かにそうだね。僕は先生や地域の人などにも感謝したいよ。家族と同じように運動会などの行事や、いろいろな場面で僕らの成長を願って支えてくれていると思うからだよ」と感謝の念を抱く対象とその理由を友達と伝え合っていく。このような対話を通して、今まで当たり前だと思っていたことや意識していなかったことの中には、支えてくれている人々の思いや願いがあることに気付いて感謝の念を広げていくだろう。そして、そのような人々の善意に応じて「家族のために自分ができる手伝いを、一つでも続けていこう」「交通立哨をしてくださっている方々に感謝の気持ちを込めて自分から挨拶をしよう」などと、これから自分がすべきことを考え、進んで実践しようとする子供を育てたい。

(2) 子供の実態

メタ認知に関わる実態調査及び教科の特性に応じた実態調査から、本学級（34名）には、自分自身の生活と結び付けて振り返ることに課題が見られる子供が7名いることが分かっている。道徳科の授業でも「友情が大切だと分かった」などと抽象的な振り返りの記述にとどまっている様相がある。また、A児は書くことに抵抗を感じており、道徳的価値の理解を基に自分が考えたことを記述することが難しく、これまでも、教師が個別に聞き取るなどして支援を行ってきている。Q-Uによる調査からは、ほとんどの子供たちが学校生活に対して安心感をもって過ごしている一方で、数名の子供たちは友達や教師からもっと認めてほしいと感じていることが分かっている。

5 主張点

(1) 教材分析と主発問

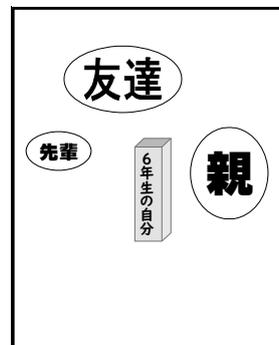
本教材では、羽生選手が金メダルを獲得するために少しでも加点したい場面で、高得点にはつながらないイナバウアーを披露した理由を考えることが中心となる。そこで、「羽生選手がイナバウアーにこだわったのは、どんな気持ちがあったからでしょうか」と発問し、羽生選手の行為の意味を問う。そうすることで、背景にある荒川選手への尊敬と感謝の念だけでなく、応援してくれている人々に対する感謝、そして自分がスケートをできていることに対する感謝にも気付かせていく。そして、『改めて今、羽生選手の感謝と同じように、目には見えない当たり前のことに感謝したいと思うことはあるかな』と主発問を行い、感謝に関する自分自身の生活を振り返り、更に感謝の念を広げ深められるようにしたい。

(2) 子供と教材をつなぐ働きかけ 〈導入〉

事前にノートに書かせておいた、「教材文を読んでみんなと考えたいこと」を補助黒板に集約しておき、「どうして羽生選手はイナバウアーにこだわったのだろう」「感謝することについて改めて考えてみたい」などの問いを共有する時間を設定する。その際、運動会の写真を提示し、表現（組み立て体操）をどんな思いで頑張ったのかを問う。そうすることで、「お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えたい」という気持ちがあったことを表出させ、羽生選手が抱いていた気持ちとの共通点に気付かせる。そうすることで、子供と教材をつなぎ、「『感謝する』とはどういうことだろう」という学習課題の妥当性を感じられるようにする。【問いタイム】

(3) 対話を促すための働きかけ 〈展開〉

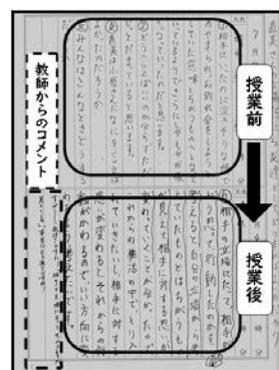
授業前にありがとうマップ（右図）に書き込んでおいた、自分が感謝の念を抱く対象を基に対話を行うようにする。感謝の念の大きさに比例して文字を大きくすることで、友達の考えとの共通点や相違点に気付けるようにしておく。そして、友達との対話を通して、友達が感謝の念を抱いている対象とその理由について知り、感謝の対象を広げられるようにしたい。さらに、上記主発問を行った後、ありがとうマップの中に、自分自身の生活の中で当たり前だと思っ
てしまっていることを想起させ、書き込ませる。その後、自分が感謝したいと思うことを伝え合うことで、感謝の念を広げ、深め、進んで実践しようとする気持ちを高められるようにしたい。【比べてみタイム】



【ありがとうマップ】

(4) 学び続ける意欲を育てる自己評価の工夫 〈終末〉

道徳ノートの上段には、授業前に「教材を読んだ感想」と「みんなで考えたいこと」が書いてある。授業の終末で、それを再度読ませた後、板書を基に授業を振り返るよう助言する。そして、道徳科の授業で習慣化している「これまでも自分は（自分のよさ）」「これから自分は（自分の課題）」「自分の考えが変わったきっかけ（友達の意見）」「実行する難しさ」等の観点から選択して振り返り、ノートの下段に記述させる。そして、授業前と授業後の自己の変容について友達に伝え、肯定的な言葉を伝え合う相互評価を行う。また、このような振り返りは、他教科の振り返りと類似させており、子供たちにとって振り返りやすいようにしている。【鳥の目タイム】教師は授業後に子供たちの記述から成長したことを見付け、認め励ます言葉を書き加えて返すようにし、子供たちが自己の成長を更に実感できるようにしたい。



【変容を実感できるノート】

6 本時の学習指導

(1) ねらい

羽生選手がイナバウアーを披露することにこだわった理由を考え、たくさんの人々の善意によって自分の生活が成り立っていることに気づき、感謝している人々の善意に進んで応えようとする態度を養う。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な子供の意識									
<p>1 学習課題を設定する。 【問いタイム】</p> <p>導入</p>	<p>羽生選手の感謝する姿勢は素晴らしいね。僕たちも同じように、運動会の組み立て体操で感謝の気持ちを伝えようとしていたね。</p> <p>羽生選手がなぜイナバウアーで感謝を伝えようとしたのかを考え、感謝することについてもっと考えを深めていこう。</p> <p>「感謝する」とはどういうことだろう</p>									
<p>2 羽生選手がオリンピックの高得点にはつながらないイナバウアーを構成に組み込んだ理由を考える。</p> <p>展開</p> <p>3 自分自身の生活を振り返り、感謝の念を抱く対象とその思いについて考える。 【比べてみタイム】</p>	<p>技としては高い得点にならないにもかかわらず、羽生選手がイナバウアーにこだわったのはどうしてだろう。</p> <p>荒川選手の競技に取り組む姿勢を尊敬する気持ちや、リンクの閉鎖危機を救おうとしてくれた思いに感謝していたからだよ。</p> <p>羽生選手は荒川選手の他にも感謝しているよね。</p> <table border="1" data-bbox="582 952 1417 1153"> <tr> <td>被災した仙台の人たちが、自分が全力を出せるように応援してくれていることに気付いたと思うよ。</td> <td>育ててくれた両親が、自分の好きなことをさせたいと思ってくれているという思いに気付いたと思うよ。</td> <td>フィギュアスケートができて、今の生活に有り難さを感じているのではないかな。</td> </tr> </table> <p>当たり前のように、見えないところで自分のことを思っていて支えてくれている人がいることに気付いて、感謝することも大切だね。</p> <p>自分も、羽生選手のように感謝できているかな。「当たり前」と思っていることはないかな。</p> <table border="1" data-bbox="582 1366 1417 1489"> <tr> <td>共に成長するために競ってくれている友達がいるよ。</td> <td>6年生になるまで、毎日一生懸命育ててくれた両親がいるよ。</td> <td>今の私は、何不自由なく走ったり勉強したりできているよ。</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="582 1500 1417 1657"> <tr> <td>陸上の練習で記録が伸び悩んだ時に、一緒に頑張ろうと練習に誘ってくれたよ。</td> <td>毎日、私の成長を願って、食事を作ってくれたり、見守ってくれたりしているよ。</td> <td>病気のときに支えてくれる家族がいることや、健康であることが有り難いよ。</td> </tr> </table> <p>自分の生活をたくさんの人々が支えてくれていることは、当たり前ではないな。感謝を伝えるために自分にできることはないかな。</p>	被災した仙台の人たちが、自分が全力を出せるように応援してくれていることに気付いたと思うよ。	育ててくれた両親が、自分の好きなことをさせたいと思ってくれているという思いに気付いたと思うよ。	フィギュアスケートができて、今の生活に有り難さを感じているのではないかな。	共に成長するために競ってくれている友達がいるよ。	6年生になるまで、毎日一生懸命育ててくれた両親がいるよ。	今の私は、何不自由なく走ったり勉強したりできているよ。	陸上の練習で記録が伸び悩んだ時に、一緒に頑張ろうと練習に誘ってくれたよ。	毎日、私の成長を願って、食事を作ってくれたり、見守ってくれたりしているよ。	病気のときに支えてくれる家族がいることや、健康であることが有り難いよ。
被災した仙台の人たちが、自分が全力を出せるように応援してくれていることに気付いたと思うよ。	育ててくれた両親が、自分の好きなことをさせたいと思ってくれているという思いに気付いたと思うよ。	フィギュアスケートができて、今の生活に有り難さを感じているのではないかな。								
共に成長するために競ってくれている友達がいるよ。	6年生になるまで、毎日一生懸命育ててくれた両親がいるよ。	今の私は、何不自由なく走ったり勉強したりできているよ。								
陸上の練習で記録が伸び悩んだ時に、一緒に頑張ろうと練習に誘ってくれたよ。	毎日、私の成長を願って、食事を作ってくれたり、見守ってくれたりしているよ。	病気のときに支えてくれる家族がいることや、健康であることが有り難いよ。								
<p>4 本時を振り返り、友達と成長したことを相互評価で伝え合う。 【鳥の目タイム】</p> <p>終末</p>	<table border="1" data-bbox="582 1787 1417 1960"> <tr> <td>A</td> <td>Bさんの意見から、当たり前だと思っていた自分の生活は、自分のことを思う様々な人に支えられていることに気付いたよ。</td> <td>B</td> <td>今まで気付かなかったことに、気付けたんだね。Aさんは、もっとこれからありがたいという気持ちが増えていきそうだね。</td> </tr> </table> <p>卒業までに学校を隅々まで掃除したり、家で少しでも家事を手伝ったりして、自分に関わる人々の思いに応えていけたらいいね。</p>	A	Bさんの意見から、当たり前だと思っていた自分の生活は、自分のことを思う様々な人に支えられていることに気付いたよ。	B	今まで気付かなかったことに、気付けたんだね。Aさんは、もっとこれからありがたいという気持ちが増えていきそうだね。					
A	Bさんの意見から、当たり前だと思っていた自分の生活は、自分のことを思う様々な人に支えられていることに気付いたよ。	B	今まで気付かなかったことに、気付けたんだね。Aさんは、もっとこれからありがたいという気持ちが増えていきそうだね。							

提案授業Ⅲ指導案
二日目

(3) 授業の詳細

学習活動 1

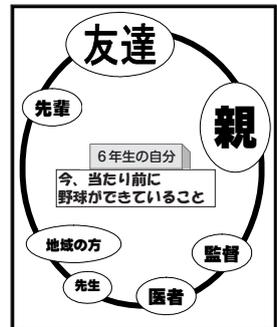
教材文を読んで内容を把握した後、本校の運動会の写真を提示し、「お世話になった方々に感謝を伝えたいという気持ち」が自分たちにもあったことを振り返り、羽生選手の感謝の気持ちとの共通点に気付かせて子供と教材とをつなぐ。また、子供たちは、事前に家庭で教材文を読み、鳥の目ノートの上段に「どうして羽生選手は、高い得点につながらないイナバウアーを演技構成に入れたのだろう」、「感謝についてみんなで考えたい」など、それぞれに追究したい問いを書いてきている。それらの問いを共有し、学習課題を学級全体で吟味しながら設定していく。羽生選手と自分とのつながりを意識した上で、感謝についてさらに考えを深めていきたいという思いを高めることで、学習課題の妥当性を感じられるようにしたい。【問いタイム】

学習活動 2

羽生選手が高得点につながらないイナバウアーを演技構成に組み込んだ理由について話し合っていく。まず、荒川選手が金メダルを獲得したトリノ五輪で、ファンの思いに応えるために高得点にならないイナバウアーを行った事実を提示し、羽生選手が、荒川選手を競技者として尊敬する気持ちを捉えさせたい。そして、羽生選手の生きがいであるフィギュアスケートが、スケートリンクの閉鎖によってできなくなる状況と同じように、自分ができなくなって困った（困る）状況が、子供たちの生活場面にあるかを問う。すると例えば、「けがをして野球の試合に出られなかったことがある」「もし大好きなピアノができなくなってしまったら」等と、自分の状況を重ねていくだろう。更に、演技前に丁寧に氷に触れる姿や、演技後に深々とおじぎをする挿絵を提示した後、「羽生選手が感謝しているのは荒川選手だけかな」と問うことで、日々の生活を支えてくださっている様々な人の存在に気付かせ、感謝の念を抱く対象の広がりにつなげる。そして、震災を乗り越え、スケートに打ち込んでいる日々や生きていること自体に感謝している、羽生選手のインタビューの内容から、その善意に応えていることに気付かせていく。

学習活動 3

感謝についての価値の理解が深まった段階で、主発問として『改めて今、羽生選手の感謝と同じように、目には見えない当たり前のことに感謝したいと思うことはあるかな』と問う。子供たちは事前に自分が誰に感謝しているかを書いておいた「ありがとうマップ」を見返しながらペアと話し合う。互いのマップに書かれている感謝の対象や大きさを比べながら質問し合う中で、その人に感謝している理由の共通点や相違点に気付けるようにする。そして、友達のを聞いて広がった感謝の対象や、自分自身の生活の中で当たり前だと思っている日々の生活について書き込ませる。その後、自分が感謝したいと思うことを再度伝え合うことで、感謝の念を広げられるようにし、様々な人の善意に応じて感謝しようという気持ちを深められるようにしたい。【比べてみタイム】



【ありがとうマップ】

学習活動 4

道徳ノートの上段に記述してある自分の問いを読ませてから、板書を基に授業を振り返るよう助言する。そして、道徳の授業で習慣化している「これまでも自分は（自分のよさ）」「これから自分は（自分の課題）」「自分の考えが変わったきっかけ（友達の意見）」「実行する難しさ」等の観点から選択して振り返るよう助言し、ノートの下段に記述させる。A児は文字で書くことを苦手としているため、教師が個別に四つの観点を基に質問し、口頭で答えたことを代わりに記述する支援を行う。そして、記述の中で、成長したと感じることを友達と伝え合い、それに対して肯定的な言葉を伝え合う相互評価を行う。最後に、全体で「〇〇さんの考えを聞いたから、自分の考えが深まったよ」等と伝え合い、学び方のよさを共有できるようにする。【鳥の目タイム】

(4) 評価

自分が感謝の念を抱く対象と感謝したいことについて友達と話し合うことを通して、感謝の念を広げたり深めたりし、感謝している人々の善意に進んで応えようとしている。【方法：発言・ノート】